

古着支援プロジェクト

1993年春、松木代表がケニアのソマリヤ難民キャンプを訪れたとき、古着を送って欲しいと要請を受け、1993年6月最初の古着支援が始まりました。その後タンザニア政府、タイ政府の方針が変わり、難民支援の古着にも税金を掛けることになり、またコロナのためにコンテナの送料が高騰したため、2022年からは国内で古着をリサイクルすることにいたしました。今年で31年目です。

古着のリサイクルは、「SDGs 12 つくる責任つかう責任」
「SDGs 13 気候変動に具体的な対策を」に貢献いたします。
皆様のご協力、ご支援よろしくお願いたします。

第33回 2024年古着募集要項

1：募集期間

2024年古着募集のご案内 2024年6月3日～17日



2：集める古着の種類

夏、冬、大人、こどもの古着全般 Tシャツ、Vシャツ、トレーナー、ジャージ、ズボン、スカート、ジーンズ、背広・スーツ、カーディガン、セーター(ウール可)、コート(ダウン可) 和服、毛皮、ベルト、ネクタイ帽子、ハンカチ、靴下、ハンカチ、ぬいぐるみ(布製)

※大量には受け付けられない(一社あたり1トン以内可)：会社の作業着、ユニフォームなど、会社の作業服、学校などで使用した制服やジャージ類

3：送り先(送料は各自ご負担ください)

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦2-8-6
ナカノ株式会社エコマ横浜工場「わかちあいプロジェクト係」
Tel. 045-701-6263

・募集期間中 持ち込み不可(古着に関する問い合わせは、わかちあいプロジェクト Tel. 03-3634-7809まで)

4：募金のお願い

段ボール1箱あたり 1000円 の募金をお願いいたします。

・使用目的：

1. 難民支援のため
2. その他、わかちあいプロジェクトの活動のため

5：古着の再利用とリサイクル

昨今「カーボンニュートラル」という言葉をよく耳にするようになり、地球温暖化対策としてCO²の削減は緊急の問題です。日本では年間約100万トンの古着の大半が自治体により集められ、70%はゴミとして焼却処分されているといわれます。古着は再利用、リサイクルが可能であるにもかかわらず、焼却しているのが日本の現実です。古着の焼却処分ですべてのCO²を出しているのでしょうか。

6：皆様から送られた衣類は選別後以下のように使用されます

①リユース：45%

東南アジア、マレーシア、タイ、カンボジアに輸出されます。海外古着需要国は赤道付近に多く春夏物が好まれる、冬物需要は少ない為、必要な物を必要な国へ選別し出荷

②ウエス：20%

リユースに回らない古着から油拭きに適する原料を選別し整形カットを行い工業向けウエス(清掃布)とし出荷

③反毛：35%

①②に回らない主に冬物古着(コートやセーター)、それらをワタに戻しフェルト部品として自動車内装材や建築資材へ、一部紡績糸にし軍手として出荷

※募金は衣類と同梱しないようお願いいたします。

郵便振替口座 一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390
通信欄に「古着募金」と記入

クレジットカード

当団体HPよりカード決済が可能です。

→<https://www.wakachiai.com/cloths/>



わかちあいプロジェクト

わかちあいプロジェクト NEWS No. 39

2024 April



2016年カヤ州でミーさん、ティロさんと始めた有機栽培のコーヒープロジェクトも、いまの軍事政権のため頓挫しています。アシア学院の荒川さん、コーヒー栽培の専門家山本さん、当時のわかちあいのスタッフの浦野さんが写っています。

わが愛する友よ、われわれが死ぬときには、われわれが 生まれたときより世の中を少しなりとも善くして往こうではないか

松木 傑 わかちあいプロジェクト代表

この文書は内村鑑三が明治27年箱根の芦ノ湖畔の講演会で天文学者のハーシエルの言葉を引用したものです。(岩波文庫「後世への最大遺物」)

私たちはこの世に生まれ、どう生きるべきか悩みます。その時人生の大きな目標としてハーシエルの言葉は励みと目標になります。私もその一人です。多くの友や諸先生方が往かれるこのごろです。果たしていまの私たちは「少しなりとも善くして」きたでしょうか。

世界人口の1%の富裕層が世界の富の82%を独占し、世界で一番の資産家の富は2,110億ドルで、人口1億人を超える

エチオピアのGNPが1,112億ドルです。世界の74人に1人、人口の1%が難民、避難民となっています。世界はますます希望が持てない状況になって来ています。

内村はその講演で誰もが残せる遺物として「勇ましい高尚なる生涯」といい、「神が支配する世の中であることを信じることであり。失望の世の中にあらずして、希望の世の中であることを信じることであり。この世の中は悲嘆の世の中ではなく、歓喜の世の中であるという考えを実行するである」と言います。

確かに私たちは日常生活で真面目に希望を持って取り組めることがたくさんあります。

わかちあいプロジェクト について

フェアトレードや難民支援活動を通して、開発途上国の人々を支える国際協力NGOです。私たちは1992年にドイツを訪問した際にフェアトレードのしくみを知り、日本で最初の国際フェアトレード認証コーヒー(カフェ・マム)の販売を開始しました。世界中から製品を取り寄せ、国内では最も多くの国際フェアトレード認証製品を取り扱っており、様々な地域の生産者の自立につなげています。また同じ頃、アフリカ・ソマリヤ難民救援をきっかけに継続的に難民支援活動に取り組み、現在までアジアやアフリカ、中東の難民生活を余儀なくされる方たちを支援しています。

募金のご協力をお願いします

これまで、目的別に募金をお願いしていましたが、本年より、募金は以下のようにお願いいたします。

① 一般募金
(わかちあいプロジェクトの活動全般をサポート)

② 古着支援募金
できる限り、海外支援も継続したいと考えております。皆様からの温かいご支援をお願いいたします。

募金の送付先

郵便振替口座
一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390

※通信欄に上記募金の種類をご記入ください

※振替用紙にご住所の明記がない場合や不鮮明であった場合、電信振替で住所が非表示の場合には、報告書等のお知らせを送りすることができませんのでご注意ください。

わかちあいプロジェクト NEWS No.39

2024 April (年1回発行)

編集

一般社団法人
わかちあいプロジェクト

デザイン

Design Convivia

発行元

一般社団法人
わかちあいプロジェクト
130-0026
東京都墨田区
両国3-26-11
東和ビル301
TEL: 03-3634-7809
FAX: 03-3634-7808

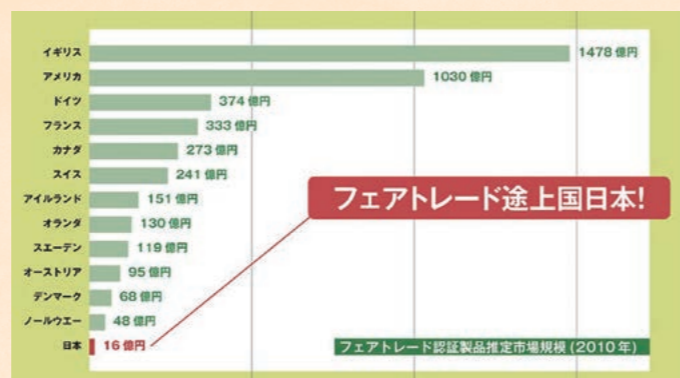
フェアトレード 途上国日本

2012年2月 12年前の話です。今ではありません。

2010年の日本の推定小売額が16億円でした。2022年は195.6億円までになっていますが、依然として途上国です。

ドイツと日本の市場規模を比較すると、ドイツは2,727億円

と、日本の約17倍。一人当たりの年間購入額が最も多いスイスと年間購入額を比較すると、スイスは12,765円と日本の約101倍という結果となりました。



《コーヒーは私たちにとっては嗜好品に過ぎませんが、途上国にとっては大変重要な産品で収入源です》

- コーヒーは世界市場で石油に次いで大きな商品です。
- コーヒーは世界約70カ国で生産されており、コーヒー農業に従事する労働者は2500万人以上といわれています。90%以上が途上国で生産されています。

世界市場において、コーヒーの年間売上高は1300億ドルを超えています。

日本は、アメリカ、ドイツに次いで世界第3位の輸入国。エチオピアでは5人に1人がコーヒーで生計を立てています。エチオピアでは、コーヒーが国の輸出額の67パーセントを占めています。

フェアトレードコーヒーの基準

説明しますと、次の2点になります。第1は産品ごとに最低買入れ価格を決めて、支払いを保証すること。第2は生産者への支払額の約10%を通常の支払と別に、奨励金として生産者団体に直接的に支払います。そのお金は農民の人たちが民主的、自主的に使用方法を決めます。

コーヒーがフェアトレードの主要な産品で、多くの途上国の主要な農産品です。フェアトレードコーヒーの最低買入れ価格：(1ドル135円で計算) 1トン42万円 奨励金：6万円、9万円(有機の場合) 20フィートコンテナには約18トンのコーヒー豆が積載されていますので、奨励金は108万、162万円(有機

の場合)になります。どれだけ多額な支援になることでしょう。

2021年の国際フェアトレード認証(FLO)の現状は、途上国の生産者団体は70ヶ国1930組織が認証を受け、190万人の農民、労働者が加盟しています。世界143か国でフェアトレード認証製品

が販売され、2568社がライセンス契約を結び、37600個のフェアトレード認証製品を販売しています。その結果、フェアトレード奨励金は約266億円までになっています。基準を決めるだけでなく、監査人が基準が守られていることを監査し、消費者にそれを保証しています。

8種類のフェアトレード有機コーヒー250gをそろえています
業務用1kgもあります

わかちあいプロジェクトはフェアトレード・オーガニックコーヒーを発売して31年になります。

軍政下のミャンマー 避難民、住民への支援活動

ミャー・リー カヤ・バプテスト教会

私は シャン州南部のフェコーン近郊の場所で500世帯、約1300人を対象とした食糧支援プロジェクトに取り組んでいます。ライコーにある私の家は銃弾で壊れました。ライコーの町は戦争によって破壊されました。すべての人が去り、ライコーにはもう人がいなくなりました。私の実家も銃弾に襲われました。今、私たちの家から約19キロ離れた場所に滞在しています。食糧支援として、お米、油、塩を届けます。いくつかの避難所では衣服、衣服、毛布などを配布しています。



2021年2月に始まったミャンマー軍による支配が続いています。ミャーさんが住む カヤ州でも軍の支配により教会の事務所も破壊され、私たちがコーヒー栽培で支援した山岳地域も戦争状態が続いています。2015年に植えたコーヒーはすでに育っていると思います。皆さんからの募金はミャーさんたちの支援活動のため使います。

